



巻頭言／地域の福祉サービス事業者間の連携・協働の ツールとして期待される社会福祉連携推進法人制度 — 2

来年4月「認定こども園きりん愛育園」誕生	
第二愛育園・きりん夜間愛育園が合併	3
ライフ・ステージ 夢咲上棟式	3
「女性の社会参加支援」を掲げ70周年 創業施設の千里丘愛育園	3
広報誌『ききょう』発刊50号 地域貢献、人“財”育成を柱に	3
先輩からのメッセージ	4~5
東生野愛育園・中川美玖さん、ライフ・ステージ 舞夢・長井信暁さん	
保護者の“保育体験”を実施 くるみ愛育園	4
介護110番 フラッグ目印に気軽にご相談を 吹田竜ヶ池ホーム	5
「世界の料理ツアー」へどうぞ 国際色豊かな夏祭り 東生野愛育園	6
児童とご入居者のオンライン交流会 サポートハウスいわと	7
トピックス	8



ボディペインティングに時間を忘れ 地域の親子10組招き「水あそび会」

認知こども園一津屋愛育園は8月5日、地域の親子(10組)を招き「水あそびの会」を開きました。子育て支援の一環です。



この日は、家庭では普段できないボディペインティングや色水あそびを行い、参加された方は親子ともども汗を流しながら時間の経つのも忘れて楽しめる光景が印象的でした。子どもたちは最後にシャワーを浴びて終了。引き続き季節に合わせた企画で地域の子育て中のみなさんを支援していきたいと考えています。

浴衣姿のベトナム人実習生も花を添え夏祭り

サンヒルズ紫豊館は7月21日、コロナ感染対策のため施設内ホールでの夏祭りを開催しました。

スタッフ手作りのお神輿で祭りの雰囲気を出し、模擬店を設営、ご入居者に冷やしうどん、綿あめ、かき氷、海鮮焼き、唐揚げ、揚げたこ焼きなどを提供、例年の福知山淑徳高校の学生ボランティアさんからは特製焼きそばが届けられました。ステージではスタッフによるソーラン節や花笠音頭の踊りが披露され、お楽しみ抽選会では初めての浴衣姿に身を包んだベトナム人実習生が花を添えてくれました。花火はスクリーン投影となりましたが、恒例の福知山音頭で締めくくり笑顔あふれる夏祭りとなりました。



梅の実の変化に驚きながら梅干し作り

第二愛育園の屋上園庭で育てていた梅の木に初めて23個の実がなり、5歳児が6月9日に収穫、梅干し作りを始めました。

梅の実と塩を瓶に入れ数日間置く。「今日はどんな様子(状態変化)かな」と子どもたちは毎日覗き込みます。数日後「お水(梅酢)出てきた!」と変化に気づき、6月下旬にはグループに分かれ「揉みシソ」を作り漬け込み。8月5日、天日干しの際には「めっちゃ赤い!」と梅の変化に驚きの声。今年度末には「おにぎりパーティー」で美味しくいただく予定です。



パラコード材料に丈夫で 軽いアクセサリー作り

ココリス(障がい福祉サービス:生活介護)では6月から「パラコード(パラシュートコード)」という紐を編んで作る丈夫で軽いアクセサリーに取り組んでいます。



パラコードはパラシュートに使われるナイロン製で、豊富なカラーバリエーションからストラップやアクセサリーなどファッションアイテムとしてぴったり。現在はヘアゴム、プレスレット、キーホルダーを制作。吹田竜ヶ池ホーム事務所でスタッフ向けに販売中ですが、販売方法を検討中です。価格はヘアゴム200円▽キーホルダー500円▽プレスレット450円。

【法人理念】

1. 個人の尊厳を旨として、その人にふさわしい最善のサービスの提供に努める。
2. 地域に開かれ、愛され、地域福祉の拠点となる施設経営を目指す。
3. 専門的知識、技術の研鑽に努め、誇れる施設を目指す。

【サービス目標】

1. オンリーワンとナンバーワンを目指す。
2. オンリーワンとはその施設にしかない特色の創造であり、ナンバーワンとはご利用者の処遇の満足度を高めるため、常時積極的な取り組みをすることである。

【愛育園経営方針】

1. 新しい時代に生きる力の基礎を培う。
2. 女性の社会参加の支援に貢献する。
3. 地域子育て支援を積極的に行い、子どもの成長を喜ぶ社会の実現に寄与する。

【高齢者施設経営方針】

1. 安らぎのある生活と環境を提供し、生きる喜びを創造する。
2. 介護機能の多様化を図り、ご利用者に対し、総合的なサービスの提供をする。
3. 地域の一員として、地域福祉の活性化に貢献し、超高齢社会のセーフティーネットの機能を発揮する。

【障がい施設経営方針】

1. その人らしく健やかにともに暮らし、希望をもって社会参加できる環境を提供する。
2. 地域の中で個々のニーズに合った専門性の高い総合的なサービスを提供する。
3. 地域にあって良かったと誰もが笑顔で過ごせる、信頼される施設運営を目指す。

【発行日】2021年11月

【発行】社会福祉法人 成光苑 (理事長 高岡 國士)
〒566-0001 大阪府摂津市千里丘3丁目16-7
TEL.06-6330-3776 FAX.06-6388-9551
URL. <https://swc-seikouen.or.jp/>

★「ききょう」の由来

創業者が愛した京都府福知山市は、冷泉を利用して地元に開放するお風呂を作り、当法人として老人施設を初めて開設した地。その福知山市の花である「桔梗」から名づけられました。「ききょう」の花言葉は「変わらぬ愛」「誠実」「感謝」「気品」。

QRコードで簡単アクセス!



巻頭言



地域の福祉サービス事業者間の連携・協働のツールとして期待される社会福祉連携推進法人制度

理事長 高岡 國士

日ごろから、社会福祉法人成光苑の事業推進にあたり、皆様の多大な協力とお力添えをいただき感謝とお礼を申し上げます。

岸田内閣でもコロナ対策が最優先課題

岸田内閣が10月4日に発足しました。首相は政権を「新時代共創内閣」と名付け、成長戦略と富の再分配を重視する考えを強調するとともに、引き続き新型コロナウイルス対策を「最優先課題」とし、ワクチン接種や医療提供体制の強化を図ることを明らかにされています。

猛威を振るっていた新型コロナウイルス感染症ですが、新規感染者数についてはここ最近減少傾向にあります。もちろん引き続き警戒は必要ですが、専門家からは、積極的に検査を実施してクラスター感染の対象を捉え、早期に対策を講じたことが感染拡大の抑制につながっているとの評価があります。

コロナ感染抑制は現場スタッフの努力の賜物

このことは、成光苑にも当てはまると考えており、保育・高齢・障がい部門の現場などにおいて、感染リスクがある中でPCR検査や消毒・手洗いなど種々の感染防止に留意しながら、対人福祉サービスの提供に従事したスタッフの努力の賜物だと

と思っております。

また、多くの関係者の皆さま方にも、日常生活における3密をはじめ、様々な行動において感染防止を意識しながら新たな生活様式に取り組み、いわゆるwithコロナの行動変容にご協力いただいていることに改めて感謝申し上げます。

懸念される福祉サービスの限界への対応

一方、コロナ禍とは違った将来への不安として、人口動態の変化や福祉ニーズの複雑化・複合化の中で、社会福祉の観点から、児童・高齢・障がいという分野別に特化した福祉サービスの限界が懸念されることです。このことを受けて、社会福祉法人制度の見直しとして、平成25年8月6日付け「社会保障制度改革国民会議報告書」の中に、「特に社会福祉法人については、経営の合理化、近代化が必要であり、大規模化や複数法人の連携を推進していく必要があります。また、非課税扱いとされているにふさわしい、国家や地域への貢献が求められており、低所得者の住まいや生活支援など積極的に取り組んでいくことが求められている。」とあります。

法人の自主的判断で環境整備が図れるかに注目

厚生労働省が令和元年度開催の「社会福祉法人の事業展開等に関する検討会」では、社会福祉法人を核とする非営利連携法人制度の創設が提言され、令和2年6月に成立・公布した「地域共生社会実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律」の中に社会福祉連携推進法人制度の創設が盛り込まれたところでもあります。

社会福祉連携推進法人は、地域共生社会の実現に向け、地域ニーズに対応した新たな取り組みの創出、その担い手である福祉介護人材の確保・育成などを進めていく観点から、地域の福祉サービス事業者間の連携・協働のためのツールとして有効に活用されることが期待されているところです。法施行は令和4年度中ですが、社会福祉法人等が法人の自主的な判断のもと、円滑に連携・協働しやすい環境整備が如何に図られるかについて、注目をしたいと思います。

事程左様に、10年後も地域の人から「信頼」にされる社会資源として、地域のご利用者、ご家族や社会福祉関係者の皆様の信頼を得られるよう精進して参りますので、今後も変わらぬご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

質問の掛け合いで盛り上がったオンライン交流会



福知山市立小学校の児童とサポートハウスいわたのご入居者

サポートハウスいわたは9月16日、ご入居者と福知山市立上川口小学校児童(5年生13名)とのオンライン交流会を行い、翌日の地元新聞(両丹日日新聞提供)に掲載されました。ご入居者はオンライン仕様の説明に不思議そうなお様子でしたが、スクリーンに教室の児童が映し出されると歓声が起こりました。盛り上がったのは「ゲーム」、ご入居者が「わたしもやってみよう(出題してみよう)」と

吹田電ヶ池ホーム

【秋祭りは手作り神輿が鎮座したまま】

吹田電ヶ池ホームの夏から秋へのイベントはコロナ禍の影響で悲喜こもごも。秋祭りは自粛しスタッフ手作りの神輿はデンと鎮座したまま、デイサービスの夏はスイカ割り復活、思い切った特大11キロサイズのスイカで盛り上げました。秋祭りは中止となりましたが、ご入居者やご利用者に少しでも季節を感じてもらおうと、スタッフが神輿を作成。担ぎ棒と土台のみ木材を使い、主な素材をプラスチックダンボールにし軽量化で丈夫な神輿に仕上がりました。神輿は施設出入口付近のロビーにお披露目展示、通りがかりのみなさんは「立派やなあ」と感心しきり。



【特大スイカ割り復活した夏祭り】

吹田電ヶ池デイサービスセンター 一方、デイサービスでは行事などが少なくなっておりご利用者から「寂しいなあ」の声もあり、前年開催できなかった「スイカ割り」を復活しました。今回は感染対策として、「割る用スイカ」と「提供用スイカ」を分けて準備。スイカもご利用者が割るのではなくスタッフがご利用者の誘導で割ることに。それも販売店で一番大きい11キロを超えるスイカを準備。目の前でスパッと割られたスイカにみなさん、拍手喝采、大喜びされていました。

スタッフ間の連絡はトランシーバーで災害発生を想定し避難訓練

岩戸ホーム

岩戸ホームは9月22日、防災月間にちなみ夜間を想定した避難訓練を行いました。

今回の訓練は初めてITC通信機器(トランシーバー)を使用して実施、大規模な災害時には電話回線がつながりにくくなるためスタッフ間の連絡手段として有効です。

特に夜勤帯のスタッフ体制は昼間よりも人数が少なく、限られたスタッフでの連携、役割もより意識しながらの訓練となりました。昨今、地震や線状降水帯によるゲリラ豪雨などの自然災害が各地で頻発しています。災害時に適切な対応ができるよう日頃から訓練を繰り返し、いざという時に備えたいと考えています。



敬老式典で107歳の田邊さんらに記念品

サンヒルズ紫豊館

サンヒルズ紫豊館で9月19日、敬老式典が行われ、寿祝いの節目のご入居者14名、さらに107歳を迎えられる福知山市の最高齢者田邊由り子さん(写真)にも岩吹泰志施設長から記念品が贈呈されました。

コロナの影響に配慮し、ご家族は参加されませんが、特製の料理が振る舞われ、スタッフによるダンスなどの余興で祝賀会を盛り上げました。



バックダンサーも加わり盛り上がった敬老お楽しみ会

ライブ・ステージ 舞夢では9月14日の敬老式典前後の5日間、恒例の「舞夢劇団 敬老お楽しみ会」が開かれ、スタッフが紅白歌合戦の歌手のように扮装し歌や踊りを披露。

赤組キャプテンの上野由香子施設長は「真っ赤な太陽」(美空ひばり)、対する白組キャプテンの山本幸一郎事業部長(写真)は「祭り」(北島三郎)をそれぞれ熱唱。バックダンサーが加わる演出もあり、ご利用者も舞台上で一緒に踊りたいへんな盛り上がり。うちわで勝敗を決め、紅組勝利で幕を閉じました。



ライブ・ステージ 舞夢

こちらは地域の高齢者と七夕飾り作り

同園では6月28日、地域の高齢者10名を招き、5歳児クラスの園児と一緒に七夕飾りを制作しました。地域の高齢者との世代間交流は2年ぶり。

地域に根付いた交流として実施、後日、この七夕飾りは園児が直接ご自宅へ宅配する予定でしたが、あいにくの悪天候でスタッフのみでお届けしました。



おやつにライスクッキー食べ避難訓練

米粉原料で 小麦アレルギーの人もOK

認定こども園一津屋愛育園は9月24日、防災月間にちなんで地震を想定した避難訓練を実施しましたが、午後のおやつに災害時備蓄品の「ライスクッキー」を食べました。

ライスクッキーは全員が食べることができるグルテンフリー（小麦アレルギーの人のための食生活）クッキーで米粉から作られています。ライスクッキーは初めての食生活でもあり、園児、スタッフとも「どんな味?」とやや不安気でしたが、食べてみると「おいしい!」、みんな違和感なくあっというまに食べました。このような備蓄品の体験も含め万一の災害に備えた訓練を重ねたいと考えます。

「世界の料理ツアー」へどうぞ

東生野愛育園では7月27日、「世界の料理ツアー」(5歳児をメインイベントに夏まつりが行われました。

昨年に行われた「世界の料理」の参加となり、ヨーヨー、輪投げなど、その国の名物料理づくりに挑戦。料理の写真でイメージを膨らませ、子ども同士で工夫。当日は着物、チマチヨゴリ(韓国)、アオザイ(ベトナム)など制作した民族衣装で店員になり、買い物にきた小さいクラスの園児に、その国の言語で「いらっしゃいませ!」「ありがとうございます!」と対応する光景が見られました。

親子で楽しむ「正雀こども祭り」

認定こども園正雀愛育園は7月10日に幼児クラス、同14日に乳児クラスの「正雀こども祭り」を園庭や屋上で行いました。今年度も乳児は保育スタッフと一緒に、幼児クラス(3~5歳児)は入替制でコロナ対応をとりました。

会場では親子でスーパーボールすくいやヨーヨーつり、ゲームを楽しめました。盆踊りで子どもたちは、アンパンマン音頭とひばり組(5歳児)の和太鼓(やぐら太鼓)に合わせて踊る法被姿を見せてくれ、スタッフも癒されるひと時となりました。

七夕世代間交流

憩いの公園の草刈り奉仕

交流はビデオレターで

認定こども園正雀愛育園は7月2日、成光苑大阪エリア高齢者施設のせつづ桜苑に、ビデオレターと七夕飾りをプレゼントしました。例年、同園2歳児が同施設を訪問、歌を披露し七夕飾りを贈って世代間交流を進めていますが、コロナ禍の影響による代案となりました。

また、同じグループの京都エリア高齢者施設岩戸ホーム(写真)やサンヒルズ紫豊館、ライブ・ステージ 舞夢にもビデオレターと5歳児クラスの手紙を届けました。



第二愛育園・きりん夜間愛育園

第一愛育園と同敷地に隣接のきりん夜間愛育園は毎月第一火曜日に、近隣の小さな公園(長の憩い広場)の草刈り清掃を行っています。地域に根ざした貢献の環です。

公園へは両園から歩いて1分ほどのところ、住宅街と道路に隣接する場所にベンチが置かれ、ひっそりと砂場があります。当初は雑草が生い茂り荒れた環境でしたが、草刈りを重ねるごとに地域の子どもたちが遊ぶ姿を見かけるまでに改善されました。

幼稚園の送迎バスを待たれている地域のお母さんから「きれいにしてくださってありがとうございます」と嬉しい言葉も寄せられています。

プチ冒険にわいた合宿保育

千里丘愛育園のすみれ組(5歳児)は7月3日から4日、園内で合宿保育を行いました。

アトラクションでは、「アニメ:名探偵コナンの登場人物」に扮した保育スタッフと暗号謎解きゲーム、グループで協力し合ってお宝もゲットできました。

いつもと違う夜の園舎内を探検しながらの肝試しや高岡園長と花火も楽しみました。お父さん、お母さんと離れた場所でのプチ冒険は、子どもたちにとって思い出の一日となったようです。

トウモロコシの皮むきに挑戦

くるみ愛育園ぱんだ組(2歳児)は7月1日と8月2日の両日、食育活動の一環としてトウモロコシの皮むきに挑戦しました。

「おやつに使うトウモロコシの皮をむくお手伝いをしてほしい」の保育スタッフの言葉に、園児たちは「やりたーい!」と意欲満々。丁寧にむく子、バリバリと豪快にむく子、「モジャモジャ(絹糸)してるなあ」と言いながら皮むき作業を楽しみました。おやつ時間、茹でたトウモロコシが登場、「甘くておいしい!」とみんな歓声あげておばりました。



来年4月新たなスタート 「認定こども園きりん夜間愛育園」誕生

成光苑保育部門の第二愛育園ときりん夜間愛育園が来年(令和4年)4月に合併、「幼保連携型認定こども園きりん愛育園(0~5歳児定員285名)」として新たなスタートを切ることになりました。保育ニーズや働き方などの変化に対応、保護者の就労と育児の両立支援、地域子育て支援、地域貢献にも積極的に取り組みます。

「認定こども園きりん夜間愛育園が合併」

津市への転園を保護者にお願しい、「第二愛育園で卒園を迎えたい」という希望が聞かれました。

きりん夜間愛育園(0~5歳児定員30名)は平成14年開設。22時30分まで子どもを預かることができる保育園として働く保護者のニーズに添えてきました。が、昨今、これまで有効と思われた時間帯の保育ニーズが減少し、逆に早朝保育のニーズが増えるという実情とも相まって今回の両園統合が実現しました。

「地域に開かれた園、スタッフも子どもたちも笑顔で過ごせる園」を合言葉に、「ここにあってよかった」と思ってもらえるようスタッフ一同精進に努めます。

地域共生型総合福祉施設

「ライフ・ステージ 夢咲(ゆめさき)」上棟式

成光苑の高齢者部門京都エリアの西舞鶴地区で建設中の地域共生型総合福祉施設「ライフ・ステージ 夢咲(ゆめさき)」(ききょう2020夏号掲載)の上棟式が10月20日に行われ、法人本部(大阪府摂津市)から高岡園長(写真前列右)らが出席されました。

コロナの影響などで予定よりやや遅延しているものの、高岡園長は「様々な困難を克服して上棟式を迎えることができ感謝の意を表したい」と工事関係者のみなさんをねぎらい工事の無事完成を祈念しました。

同施設は、介護保険と障がい福祉の地域共生型総合福祉施設として整備するもので、子どもから高齢者まで幅広い世代にサービスを提供できるため、地域のみなさんから大きな期待が寄せられています。来春の開業に向け全力で準備を進めます。

ISO9001システムの適用範囲を拡大

障がい福祉サービスのココリス 開設6年目を迎えたココリス(生活介護、児童発達支援、放課後等デイサービス、障がい児相談支援)をはじめとし、高齢者施設に併設する事業所も含め、全ての障がい福祉サービスは、JQA(一般財団法人日本品質保証機構)による審査(8月2日から4日)を経て「ISO9001:2015(一貫した製品・サービスを提供し顧客満足度を向上させるためのマネジメントシステム規格)」認証資格を取得しました。

ココリスは、高齢・保育部門と連携を図るとともに、地域の子どもから高齢者までのサービス内容が着実に充実、様々な相談にも対応できるようになってきたことから、適正な情報開示による経営の透明性の確保を目的として、ISO9001システムの適用範囲拡大に向けて体制整備を進めていました。今後も事業を継続する上で、更にご利用者やご家族への安心やご期待に沿いたいと考えています。

成光苑創業施設の千里丘愛育園

社会福祉法人成光苑の創業施設にあたる千里丘愛育園は故高岡ひさる氏が戦後間もない時代に働く女性支援を掲げて創始、1950年(当時千里丘保育所)に認可されて70周年を迎えました。

現在の高岡園長(千里丘愛育園園長兼務)は若くして母でもある先代ひさる氏から事業を引き継ぎ、当時では珍しい「女性の社会参加支援」を進め、さらに延長保育をはじめ教育的な要素も含めた保育内容を積極的に取り入れるなど、最先端の保育園として事業展開されてきました。

千里丘愛育園には多くの歴史や思い出が詰まっています。同園を巣立った子どもたちが親となり祖父母となり、子や孫たちが同じ制服に袖を通して登園する姿は、長い年月を超えても変わらずに地域に愛され、必要とされる園の証です。創立の原点を継承しながら、新しい時代にあった保育園を目指し、これからも日々目標に向かって精進していきます。



70周年記念動画 <https://vimeo.com/572411271/e5d17a0442>

地域貢献、人“財”育成を柱に 社会福祉法人の役割と責務を伝えて

社会福祉法人成光苑の広報誌「ききょう」は本号(2021年秋号)で発行50号を迎えました。「ききょう」は、成光苑創業者で初代理事長の高岡ひさる氏が愛した京都福知山市の市花「桔梗」(本誌巻末に由来にちなみ、2003(平成15)年7月に第1号を刊行、以来、年3回(新年、夏、秋)の発行を通し積極的な社会参画をめざす「地域貢献」と研修制度の確立に伴う「人財育成」(スタッフは大切な財産)を大きな柱に、社会福祉法人の役割と責務を発信し続けています。

介護、保育両部門の日常業務に携わるスタッフの活動をピットに伝える一方、施設のご利用者、ご入居者、子どもたちの充実した日々をご家族や保護者のみならずお届けるのも本誌の重要な役割です。毎年夏号に掲載される「情報開示」も特色の一つ。事業や研修、財務内容など報告と計画をセットに開示し、経営の透明性、健全性を明らかにしています。介護、保育の若手スタッフによる「先輩からのメッセージ」は、福祉の仕事に興味を持つ就活生へのアピールにもひと役買う人気コラムに定着しています。ご愛読を!



▲ききょう創刊号

保育基礎研修

福祉の原点「和顔愛語」の理念理解を重点に

保育部門では7月10日、千里丘愛育園で保育基礎研修を実施しました。今年度は、新型コロナ禍で中止となった昨年度の採用者を含め計20名が対象となりました。

研修では「和顔愛語―福祉の原点―」（法人理念のハンドブック）の共通理解を深めることを重点に、保育者にとって大切な心得「マナー」、子どもの人権、安全管理、保健衛生などがテーマ。グループワークでは「経験や立場の近いスタッフ同士で直接会話をでき意欲が湧きました」との声も聞かれました。講師陣にはこれまでの主任・主幹に代わり、今回から次世代の幹部候補育成の観点から副主任・副主任が担当。新人スタッフの前に立ち、人材育成の難しさなど新たな気づきや学びを得たようです。



離乳食の上手な介助法は？ くるみ愛育園で「離乳食ミニ勉強会」

くるみ愛育園は7月16日、「離乳食ミニ勉強会」を行いました。「離乳食の介助がうまくいかない」と2年目保育士（0歳児クラス担当）からの相談を受け企画したもので、保育士3名（同）、栄養士1名が参加しました。

栄養士から野菜スープの作り方や調理法による野菜の食感の違いなど離乳食の基本を学び、離乳食と市販のベビーフードの食べ比べ、「菌を使わずに食べる（中期）」「前歯だけで噛む（後期）」など発達に応じた食べ方で試食しました。

保育士同士による介助体験では、普段どおり下唇にスプーンを当て子どもが自ら口を閉じて“モグモグ”できるよう介助する方法とスプーンを口の中まで入れる方法を比較。スプーンが口の中に入った瞬間「離乳食が勝手に喉の奥に流れていく」と驚きの保育士。同時に「介助される子どもの気持ちがよく分かった」との声も聞かれました。



保護者の保育体験を実施 保育現場への理解を深める

くるみ愛育園では保護者の保育体験を実施しています。今年度はコロナ対策に配慮しながら6月21日～7月30日の期間に少人数単位（0歳児クラスは1名）で行われました。保護者に実際に保育現場に入ってもらい、子どもたちと一緒に過ごしてもらうことで、園での生活への理解や園と保護者の信頼関係を深めるのがねらいです。

朝の会の歌や立腰などでは別室から見学する保護者から笑いこぼれる場面も。リズム・わらべうた遊び・制作・屋上での遊びには子どもたちと一緒に参加。0歳児クラスでは、「初めて離乳食を食べさせ（介助）ました!」と感激される父親の姿も。

保護者からは「（保育士が）わが子のように関わってくれ嬉しかった」「小さい頃から自然と漢字（漢字カード）に触れられるのはいいですね」など多くの感想が寄せられました。



先輩からのメッセージ



中川 美玖
東生野愛育園
2021年度入社

子どもたちの笑顔を見守ることに頑張ります
たくさん悩み、たくさん考え、自分がイイと思つた園を信じて

—自分のどんな所が今の仕事に生かされていると感じますか？—
私は人の笑顔を見るのが大好き。入社1年目、0歳児の担任ですが、スタッフも子どもも「笑顔が絶えないクラス」です。感情をうまく表現できない幼い子どもたちですが、「こつたら笑顔になるのかな」と考えながら日々。保育士としてはまだ未熟ですが、先輩も気軽に相談しやすい雰囲気で見守ってもらえるのでありがたいです。子どもたちの笑顔を見守ることに頑張りたいと思っています。

先輩からのメッセージ



長井 信晴
ライフ・ステージ 舞夢
2021年度入社

趣味のギターが介護現場に生かされています
育成型度が確立し不安のない職場環境、ぜひ成光苑施設の見学をお勧め

—自分のどんな所が今の仕事に生かされていると感じますか？—
学生の頃よりギターが趣味で、ユニットのお誕生日会で演奏をさせていた機会がありました。思いがけなく、利用者やスタッフから褒められ、趣味（ギター）が介護の現場に生かされると実感しました。ご利用者の喜びや満足に常に考えサードヒスを提供していきたいと思っています。

—学生のみなさんにメッセージを—
大学3年の時、友人に誘われ東生野愛育園での夏まつりボランティアがきっかけでアルバイトをすることに。就職活動が本格化する頃、「いろいろな園を見学し自分がイイと思つた園に就職す、さきと現職の先輩保育士に助言され、たくさん悩み、たくさん考え、東生野愛育園に決めました。

半年が経過し、この選択でよかったと思います。学生の皆さんも自分の理想や考えに合った園は必ず見つかると信じ、悔いのない就職活動をしてほしい。そして、素敵な保育士になってください。

—学生のみなさんにメッセージを—
安に寝られる時期が過ぎました。ある友人に打ち明け相談に乗ってもらえたこともあって福祉の道（仕事）に進むことに決めました。友人との関係から周りの人の存在の大切さや自分を知るきっかけになりました。

—一般に「介護の仕事は楽ではない」といわれますが、私自身には「とてもやりがいのある職業です。成光苑は育成型度が確立しており、新人でも不安なく仕事に就ける職場環境があります。職場体験したいという方は成光苑の施設を見学し、実際に感じて感しることをお勧めします。

「認知症やご家族を地域で支えるネットワーク」事務局担う高槻けやきの郷



「認知症の人と家族のための情報交流と相談会」が7月22日、高槻ケヤキ（総合市民交流センター）で開催され、高槻けやきの郷からは秋藤良紀ケアマネジャー（兼 地域支援員）と寿みのりの郷の平井龍介認知症対応型通所介護生活相談員が支援者として担当しました。感染対策のため人数を10名に制限、被介護者や家族への思いや関連する悩みを3グループに分かれて相談に応じました。

認知症の人を地域で支えるネットワークづくりのボランティア団体「認知症を理解し地域で支える会」が2009年に発足、高槻けやきの郷は3年前から事務局を担っています。

同会はシンポジウムや事例検討会などを通してネットワークを広げていますが、「情報交流と相談会」はその活動の1環。コロナ禍で活動を縮小しましたが、同会を通じて同じ境遇の方の経験談や専門職のアドバイスも参考にされ、参加者から「気持ちに楽になった」との感想も寄せられました。

介護110番

フラッグを目印に気軽にご相談を

吹田竜ヶ池ホームが参画する「片山・岸部ブロック介護者支援の会（ききょう2016新年号、同夏号掲載）」では「誰もが身近で相談できる場所の創出」として「介護110番のフラッグ」を作成しました。今年9月からこのフラッグを目印に、片山地域包括支援センター・岸部地域包括支援センターだけでなく、ご自宅から一番近い相談場所に行けば、同包括支援センターと同じように気軽に相談

吹田竜ヶ池ホーム

できるようになりました。また、更に専門的な相談内容については、地域の要支援者と地域包括支援センターへのつなぎ役として、互いに支えあう地域の構築を目指します。同時に『福祉マップ』を地域に配布、相談しやすい環境作りのための対応マニュアルも作成しました。安心して地域を支える取り組みとして積極的に地域との関係を強化していきたく考えています。



「せつつ桜苑講座」開講

摂津市いきいきカレッジ

第25回摂津市いきいきカレッジ（令和3年度、老人大学講座）の「せつつ桜苑講座」（9月3日、12月10日、計15回）の開講が同施設で始まりました。受講生は男性7名、女性26名の33名、平均年齢は74歳で、最高齢者は84歳。開講式には森山正撰津市長、高岡国土成光苑理事長、前田一彦せつつ桜苑施設長が列席されました。

本年度は「人生はこれからだ！ 持ち続けよう！ やる気と元気！」をテーマに、いきいき健康科初級コース・中級コース、音楽にふれあう科、楽しく学ぼう美術科、新たに陶芸に親しむ科も加わりました。感染症予防対策を徹底し、受講生のいきがいや仲間づくりに繋ぐことができるよう支援していく方針です。

フィリピン出身のパノヨさんを採用



ライフ・ステージ 舞夢（舞鶴市）に在留資格「※特定技能（特定産業区分：介護）」を取得しているフィリピン出身のパノヨ・ロセル・バグティラさんが9月1日、入社されました。

パノヨさんは3年前から東京でハウスキーパーとして働きながら在留資格を取得、愛知県内の登録支援機関の紹介で採用。介護業務は未経験ですが、年間育成計画に沿ってOJT（実務を通じて新人教育を行なうこと）を進めているところです。転入直後は戸惑いもあったようですが「私生活も落ち着いてきました。（介護の）仕事のスキルを高めた」と抱負を語ってくれています。立派な介護スタッフに成長され活躍してくれることを期待しています。

幼児クラスの保育参観実施

認定こども園正雀愛育園では6月22日から計7回にわたり幼児クラス（3～5歳児）の保育参観を行いました。日ごろの園での様子は「よい子ネット（園と保護者を結ぶネットワーク）」を活用し、保護者のみなさんに情報発信していますが、直接保育現場を見ていただくのです。

今年度はコロナ禍に対応、4グループに分かれて人数制限を行い、少人数、複数日開催となりました。子どもたちも参観の雰囲気にならなれず、慣れつつあります。今後も工夫を重ね、子どもたちの成長を喜んでいただける保育に努めたいと思います。

